

やるで！みんなで！全力で！

平和学習号

～あたり前を、あたり前に～

四日市にも空襲がありました



左の写真は現在の四日市コンビナートの景色です。右は1945年6月18日の空襲があったあとの四日市市街の写真だそうです。（朝日新聞より）奥の方に見える建物は市役所だそうです。その他はほぼ焼け野原になっています。みんなのおじいさんやおばあさんでも、まだまだ若い方が多いと思います。80年以上前のこの景色を、実際に見た方も少なくなっているのかもしれませんが。

なぜ、四日市が空襲の標的になったのでしょうか。四日市には、海軍第二燃料廠（ねんりょうしょう）という、艦艇や航空機などの燃料を製造・供給する国内最大級の軍事施設があったそうです。そのため空爆の目標となり、9回の空襲により808人という死者・行方不明者と4万9千人を超える被災者を出したとのことでした。

戦争は遠い歴史の話ではなく、今もたくさん子どもたちが昔の四日市のような、もしかしたらもっとひどい景色の中で日々を送っているのかもしれませんが。この写真は、約80年前のわたしたちの家族の姿かもしれないと想像すると他人事ではいられなくなると思います。



8月31日まで、四日市博物館では四日市空襲に関する展示（無料）を行っています。まずは「知る」ことで自分なりの平和を考える時間にしてほしいです。



『四日市空襲と戦時下の暮らし』～命をつないだ食事～